

がれき問題

原因は

県知事・市長の

政治姿勢勢に

9月議会

混迷を深める新潟市の災害廃棄物(がれき)の受け入れ。篠田市長は、その原因を水銀や鉛などが基準値を超えた、新潟市特有の問題」と県田知事の発言などに、新潟県固有の問題」にあるとごまかしています。

議員団はこれらの問題について議会質問や申し入れ

ご何度も指摘し、9月議会の修正提案では「3つの提案」を提起(下表参照)。

私は、県知事の発言や、行政不信」がある中で市長が説明会に一度も出ず、安全問題などについての議員団の申し入れも真剣に検討しない等の政治姿勢が根本原因と指摘しました。

「がれき問題」の議員団の活動

- 3月16日「東日本大震災で発生しがれき受け入れに関する決議」可決。私(小山)が賛成討論
- 4月1日「中議団速報」で「議員団の見解」発表
- 11日 議員団、廃棄物施設課から説明を受ける
- 24日~25日 中議会「現地視察」に参加。
- 5月7日 新田清掃センター、第4赤塚埋立処分地視察調査
- 8日 亀田清掃センター、太夫浜処分地視察調査
- 10日「がれき問題」(安全対策等)で市長申入れ(第1回)
- 20日~22日 岩手県・宮城県「がれき」視察調査
- 28日 視察調査報告集会
- 6月21日 6月議会一般質問(小山議員)
- 7月26日~9月9日 がれき住民説明会傍聴(のべ30ヶ所)
- 9月7日「がれき問題」(住民合意がないままでの災害廃棄物の試験焼却は行わないこと)で市長申入れ(第2回)
- 18日 9月議会一般質問(明戸議員)
- 10月2日 “ 修正動議提案(小山議員)
- 11月15日「がれき問題」(試験焼却等)で市長申入れ(第3回)
- 12月10日 12月議会一般質問(小山議員)

市民の理解と合意を得る3つの提案

- ①. 受け入れ災害廃棄物の安全性、焼却施設と埋め立て施設の安全性の確保を具体的にを行うこと。
- ②. 万一の風評被害、健康被害には、市が責任をもって補償することを明らかにすること。
- ③. こうした説明を市長自らがを行い、国や県にも本腰を入れて働きかけること。

社会を変えるには

その直後から

歴史的な総選挙は、自民党の「大勝」だった。自民党政権から政権交代した民主党政権が、国民への公約を裏切り続けた国民の怒りと批判の表れだろう。選挙後、早くも自公を中心とした大連立政治への画策が始まった。そこで私たちがいま、どんな位置にあり、立ち向かっていくのか展望してみよう。

民主党政権の成立と変質をより長い歴史の文脈の中で振り返り、こめる。1999の年代初頭、冷戦の終えんを区切りとして軍事大国化と国際競争力強化をめざす日本の新自由主義改革の時代が始まり、小泉政権で頂点に達した。

しかし、

回帰を打ち出す。

だが財界の最大の不満は、新自由主義改革を強行できる唯一の道が自民党・公明党との「大連立」なのは明らかなのに、菅政権が全く動かなかつたことだ。保守層の苛立ちが菅政権を倒し、野田政権が誕生する。

野田政権は、財界やマスコミの希望にこたえ「民自公・三党による構造改革の断行に舵を切る。その構造改革の「触媒」とされたのが、社会保障と税の一体改革。野田政権が消費税引き上げと一体改革を強行した理由はここにある(渡辺治著「渡辺治の政治入門」。安倍政権は、「三権は、「三党合意」に沿って国民いじめや危険な方向に動き出している。

私たちはどうすればいいのか。政治家が「自助努力」という時代だから、自分が動かないと変わらない。すぐきな社会やすべきな政治は待っていない。現れない。社会運動に参加している小沢英二・慶大教授はいう。「社会を変えるには、あなたが変わる。あなたが動くこと」。

言い古された言葉だが、いまその意味が活かされる時代になつてきつつある。

新自由主義、日米軍事同盟の危機を感じたアメリカ・財界は、マスコミの加担も背景に猛烈な巻き返しに動く。普天間基地問題で、迷走した鳩山政権は倒壊。代わった菅政権は、いち早く新自由主義



★ ★ 国のため、作成経費の一部は政務調査費を使っています ★ ★ ★